

【研究概要】

脊髄小脳変性症（SCD）とは、運動失調を主な症状とした神経変性疾患である。進行性核上性麻痺（PSP）は、パーキンソニズムを特徴とし、PSPの診断には小脳症状がないことが必須とされていた。しかし、小脳症状が顕著な例の中に病理学的にPSPと共通性があるものが周知されるようになり、PSP-C（小脳型）という疾患概念が確立されつつある。従来の診断に従えば、SCDに合致するが、新しい疾患概念に基づきSCDとは異なる小脳症状を主体とする神経変性疾患に対して、TRH製剤の小脳症状への有効性を検討する。